

あまでうすです

《不味い珈琲が氾濫しているー!》...川島良彰氏の衝撃的な言葉から始まった。今回も各務原キャンパスでのコーヒー講演会である。『コーヒーの未来を切り拓く』をテーマに、途中コーヒー・タイムを取り乍ら深あい話を三時間ほど聴いた。品質を落して安売りに走るコーヒー、高級レストランの最悪コーヒー、都市伝説がまかり通るコーヒー、何の裏

付けも無いスペシャリティ・コーヒー。と、最近のコーヒーの品質事情に関して、ズバツと業界に切り込んで行く語り口は流石コーヒーハンターである。そこには一昨年秋頃からコーヒーの値段が高騰している背景があると云う。生産コストは破格に上がり、高価格で『コーヒー』の産地が潤っていない為、土地代、石油の価格、労働費などがその原因とされる。それにコーヒーの価値のバラン

スが大不均等とされ...価格と品質が釣り合わない、最高級品だけがコーヒーでは無い、低地や中腹でも自然と環境を守って丁寧に作られたコーヒーは美味しい。と話す。またコーヒーは素材で決まる...栽培環境によって異なるが、豆の素材が八割焙煎と抽出によって善し悪しが決まる。そして、コーヒーのエグ味、雑味は未成熟の豆が原因である業界に携わる人達にとっては、精神を引

き締めなければならぬ。さらに、一丁ズに合ったコーヒーを選べる様な市場作りや、どの方法が一番美味しいか等と決めつけ無い(ペーパードリッブ、ネル、サイホン等)、日本ほどコーヒーの抽出方法が多い国はないと川島氏は云う。そして最後に、喫茶店やレストランで出された珈琲を飲んでみて不味かったら「不味い!」と云え。と話を締め括った。(確かに、

何時も家で飲んでるレギュラー・コーヒーの方が美味しいではないか!と感ずるコーヒーに遭遇する事がたまさかある) コーヒー・タイムには、三種類の珈琲を飲み比べてみたが、いつも飲んでいるフレンチとは趣が違い、裡でもパナマ・エスメラルダ・ゲイシャの味覚は独特で好きな珈琲でもある。その後は『エスプレッソの歴史と抽出理論』の話があり、去年UCCコーヒーマスターズ・エ

スプレッソ部門で優勝したバリスタである水谷恵美子氏のエスプレッソの抽出実演を間近で見た。これはカメラの動画機能で七分ほど録って「Comes in」に早速アップロードした。毎年コーヒーの講演を聴いているが、聴く度に新しい発見があるのは嬉しい限りである。『良いコーヒーとは、悪魔の様に黒く、地獄の様に熱く、天使の様に純粹で、愛の様に甘い』

# お便りします

風地蔵の鎌澤店長さんはじめ、原さん、大橋さん、ほんとうにありがとうございます。この度、皆さまのお陰で美帆さんが立派な結婚式を挙げる事が出来

て、心からお礼申し上げます。今日この様な日が来るとは、私も思いもよらなかっただけに喜びもひとしおです。風地蔵新聞98号に鎌澤店長さんの10年を振り返って手記に美帆さんとの出会いが詳しく書かれており、鎌澤店長さんの思

いやりの深さ、とことん若年の意見に耳を傾ける理解しようとする姿勢に改めて感服致しました。又そういう人に巡り合えた美帆さんも幸運があつたんだとつくづく思い、「風地蔵」そのものが幸せの園で一杯のお店なんだ

と確認致しました。色んな事があつた今年もあと僅かですが、くれぐれも風邪など引かれない様にお気をつけ下さいませ。(北九州 田中春江)

# 風地蔵新聞

十年を振り返って

鎌澤 宣子

前回は、社長との出逢いを書きましたので、今回はリーちゃんとの出逢いを書きます。

最初にリーちゃんとお会ったのは、社長から一カ月程あとの九月です。初めて会った印象は、当時小学一年生だったので、とてもキカンですが、やんちゃというイメージで、男の子かと思つたほどでした。

度にしつかり出ていて、まん丸い顔で、私がつまみもの頃に見ていた「いなかつペ大将」や「あばれはつちやく」や「ケンちゃんシリーズ」の男の子をつくりました。女の子と聞いても驚いたのを覚えています。そういうリーちゃんが、一年後、二年後にとても私の支えになつてくれるとは、思いもよりませんでした。自分が納得できない事は、親にでも喰いついていくおんちゃん。またそれを本気で受け止めて同じ目線で戦う社長。この二人を見ていて、「なんて親子だろう。なんでこんなにムキ

になつて言い合えるんだらう。」といったも思つていました。こんな小さくても「自分」というものがあるのはすごいなと思います。私の子どもを振り返つても、いつも周りに流されていたように思います。最初は、カフェのスタッフとして入った私ですが、二、三カ月したころに社長から、「エステティシャンになつてみないか?」という話をいただいた。契約をとつたり、化粧品売り上げも、歩合制になるから、お給料も上がるし、どうだろうか。「考えてから返事をちょうだい。」と言

われて、最初は、何もわからず、軽い気持ちで即答していたのですが、ここからが修羅場の始まりでした。マネージャーから技術の指導を受けて、一週間後に、社長にモデルになつてもらい、初めてお手入れをして、なんとか合格点をいただいたのを今でも覚えています。知識の勉強も最初のうちは、頭に入つてこないし、ピンと来なくてお客様の肌と結びつかないので同じ失敗を繰り返してました。社長からは、「なんでわからんのか?これはどうでしょう。」と頭ごなしに怒られて、考えられなくなつ

て泣いて逃げる。その繰り返しでした。ただ泣いているという時は、「そのことから逃げたい。言わないで。」という気持ちの方が強く、またできない事が恥ずかしい。分からない事がダメなんだというふうに思いこんでしまつて、どんどん自分を追い込んでいましてしまいます。そんな私を見て、社長もどうしていいのかわからず、ともかく背中を向けてる私を振り向かせようと、それも力づくなので、それをみかねてリーちゃんが私と社長の間に立ちはだかつて「おかあさん!!」そんな言い方せんでもいいやろ。なんですぐなくなるんや。」と私をかばってくれていました。最初の

うちは、「リーちゃん」じゃなくて「リーおんちゃん」と呼んでいました。リーおんちゃん、すねたりぐずったりすると、寝た振りとかもよくして、一緒に出かけていると車の中ですぐに寝てしまいます。降りるときになつても起きないので、おんぶした事があり、それが気に入つて時々そうします。そうすると機嫌もおつてきて、口をきいてくれます。またリーおんちゃんが社長とケンカすると、「ねえ、かまざわさん、きいてよ、おかあさんたらさ。」と始まりません。そこで社長が、「だってあれはリーおんがおかしいやろ!そう思わん。」と始まりません。どちらの言い分も

第99号

発行 編集  
風地蔵 田中 美帆  
〒503-0922 岐阜県大垣市馬場町85

ヤフーブログ 毎日更新中  
炎の女みほ日記  
<http://blogs.yahoo.co.jp/rion5230>

聞いて、「えっ、りおんちゃん、それは違うんじゃない。社長は多分こういう意味で怒ってると思うよ。」と言うといつ

「なんで笑っんや！」と怒りますが、ますます笑いが止まらなくなつてしまふこともたびたびでした。社長のお友達で、りおんちゃんのお母さんが、いつもりおんちゃんのことを「りんちゃん」「りーちゃん」と呼んでるのを聞いて、りおんちゃんが、小学校三年生か四年生の時に、勇気を出して「りーちゃん」と呼んだら、とても恥ずかしそうに、でも口では、「おかあさん。かまざわさんがうちのりーちゃんを呼んだ。気持ち悪いし。」と、でもとても照れくさそうに言っているのを見て、よかつた勇気を出して言ってみて。と思いました。それから今まで以上に近い存在になつた気がします。まだまだりーちゃんとのエピソードもいっぱいありますが、続きは次号に。

披露宴

原 由里子

拳式の後、全員での写真撮影がありました。前の方には、新婦の関係者で、後ろは、新郎の関係者が立ち、「もつと笑つて下さい」と言われながら、撮影が終了して、次は披露宴です。受付をした人は、お金の確認をしてい

て少し遅れて披露宴会場に来ました。店長は店長で、打ち合わせと拳式関係者と話をしにいき、店長も少し遅れてきました。結婚式場は1階建てのビルで、1階が拳式会場、6階が披露宴会場となつていたので、エレベーターで6階まで下りて行きました。エレベーターが開くと会場の入り口付近でまだ入れないのか、拳式に参加をした人たちがお話をしたり、

意しているんだし、せつかくだからやりましょう。」と押し切られ、店長も、「せつかくだからやるう！」と言うし、仕方なくやる覚悟を決めた。本音は練習をしたけど、自信がなかつたといつた方が正解です。打ち合わせが終わ

り、余興の準備も終わり、新郎と新婦の登場を待つばかりとなりました。いつでもビデオが撮れるようにスタンバイをしました。新郎・新婦の入場。しかし、入場の曲が斬新だつた。ミュージカルや映画にもなつた「オペラ座の怪人」といえばこの曲という有名な曲が流れ、登場です。登場の音楽がものすごくインパクトがありました。新郎・新婦が会場に入り、席に着くまでのビデオもばつちり撮れました。ただ、ビデオカメラが社長のなので、使い方がわからず、ズームがでなかつたのが残念でした。けど社長がビデオを見たら、皆が映っていて、ズームを逆にしないでよかつたよと言われ、ホツとしました。司会者の方が次々と進行していき、スピーチになりました。先に新郎側のスピーチ。紙を見ながら読んでいたので、「見ながら読むなよ」とチャチャを入られられていました。次は店長のスピーチの番です。社長は誰よりもスピーチは店長と思つていた

たばこを吸つたりしながら待つていました。5分くらいして、会場に入れ、席次表を見ながら、自分の席を確認しました。私の席は、新婦側の一番前の席でした。引き出物や自分の荷物があるのを邪魔にならないように机の下に置き、やつと使えるビデオカメラとカメラを用意して、いつでも撮れる準備をしました。披露宴が始まる前に、余興の準備や打

たいです。風地蔵が開店して、11年目に入り、オーブンの時からいる店長が一番、社長やりおんちゃんのことを知っているから選んだ。適任だと思ひました。ちなみにスピーチの原稿は、新幹線の中で清書に書き直していました。ぎりぎりまで考えていたみたいですが、店長の最大のプレッシャー「スピーチ」が始まりました。口がマイクから遠かつたのか、聞きとりにくい場面もありました。スピーチの内容は、10年前の社長の印象や、お店のことが中心です。それを短く端的に書いてありました。このスピーチに、「よかつたよ」と後から社長が店長に伝えて、嬉んでいました。私も10年前のお店の事や、スタツフの事が知るこ

とができた気がしました。料理が次々と運ばれてきます。カメラで料理を撮影。時々、ビデオを回さないと

と自分で、早食いを撮る事ができなくて、周りの方の料理を撮らせて頂きました。ビデオもただ撮つて

ち合わせがしたいと、店長は司会者の方と打ち合わせを始めました。すると、すぐに、「原先生！」と少し驚いた感じの呼ばれ方をしたので、何かな？と思ひながら店長の近くに行く

と、言われたことが、「新郎側、余興しないんだって！」と驚きでした。「ネーっ！」やらないなら余興し

た。私の予想通り、新郎は花嫁の顔にケーキをつけてよとして社長が、「モーやめよ！」と言つていました。一番いい所でビデオを撮っていました。結婚式に参加された方が、立派なカメラを持っていて、写真の出来栄もキレイなのと、腕もいいです。撮影係りの私は、その方にカメラで撮ってもらいました。ほとんど横顔でした。しかも、私が映っている写真が本場に少なく、店長の写つて

いる写真の枚数が、一番多いです。この後、新郎、新婦が一つ一つの席にあいさつに回つていました。テーブルに対してゆつくり話をしたりしているの

余興だろうと思ひ、こどもも早食いをしていたら、「お願いします。」と司会者の方に言われ、同じ席に座つていた新郎の親戚の方に、「出番だよ」と言われ、「ヨッシャー！」と言いな

ら、立ち上がり準備した所に行きました。岐阜から来た4人で、一人は歌を担当して、あとの3人は、パネルシアターという歌詞に合わせ

て、最初は心配でしたが、手をたたくリズムに合わせてくれたりと、ノリがよくて本当にかつたです。私達の余興で終了。次に行くと思つたら、新郎側があわてたらしく、急ぎよ、友人の歌の上手な人がチューブの「そばにいるよ」という歌を唄いはじめました。「この歌好きな子にしか歌わない」と少し苦笑しながら、新郎を見ながら唄つていたので、「こつち見て唄つな」と新郎に言われて

ました。この後、会場の人に突撃インタビューというコーナーになり、何人かにインタビューして見ました。社長的には、ずいっとインタビューでも良かったと言つていました。インタビューをした方の中に、熊本からのお友達がみえて、自分が友人代表スピーチだと意気込んでみえて、スピーチが

余興だろと思ひ、こどもも早食いをしていたら、「お願いします。」と司会者の方に言われ、同じ席に座つていた新郎の親戚の方に、「出番だよ」と言われ、「ヨッシャー！」と言いな

く感じる事ができた。写真ビデオで、りおんちゃんからの手紙は、店長の事も書かれていて、隣の席の店長が泣いていました。泣いている姿をビデオに撮り、こつちを見て目が合いそうになると、社長の方にビデオを回しました。お母さん(社長)と、店長が大好きという内容の手紙で、新郎をお父さんと本心に思っている内容でもありました。社長は前もつて、手紙の内容を読み、分かつていたのに泣いてしまつたと言つていました。前もつて、読んでいてもやさしい感動できる泣ける手紙でした。店長の泣いている所をビデオで撮っているのは、やつぱりバ

り、何人かにインタビューして見ました。社長的には、ずいっとインタビューでも良かったと言つていました。インタビューをした方の中に、熊本からのお友達がみえて、自分が友人代表スピーチだと意気込んでみえて、スピーチが

笑ひあり、涙ありの結婚式でした。この後、2次会があり、夜中の12時までは残り、ラーメン組は残り、私達岐阜から来た4人はタクシーに乗つてホテルに帰りました。タクシーの運転手さんに、「福岡つて良い所ありますか？」と聞いたら、「ないよ！熊本や大分に行つた方が、温泉もあるし、見る所もあるし、遊ぶならそつちに行つた方がいいよ。」と、福岡のタクシー運転手らしからぬ発言を聞きながらホテルに着きました。明日は観光です。観光の内容は、次号に書きます。

余興だろと思ひ、こどもも早食いをしていたら、「お願いします。」と司会者の方に言われ、同じ席に座つていた新郎の親戚の方に、「出番だよ」と言われ、「ヨッシャー！」と言いな

# ちよつと立ち話

いつも新聞  
見てるよ。九  
州のお醤油の  
チラシはいっ  
てたから、友  
達連れてきた  
よ。続けるこ  
とは大変だけ  
どよくやって  
るね。お店に行こうと思  
うんだけど、なかなか行  
けなくてごめんね。(船  
町の奥さま)

新聞読んでいて、昔はけっ  
こつ、悪いこともしてた  
のね、昔の人と結婚でき  
てよかったね。(こ近所  
の奥さま)

新聞読みました。結婚式  
のうらやましいですね。  
(エステの西wさん)

カマ・カマ・カマ あ、  
鎌澤さんにお手紙いただ  
いたつよ。フウジソウ?  
新聞、まだ全部は読んで  
らんばってん、りおんちゃ

ん、ゲームもテレビもな  
く、中学から剣道だもん  
ね。(熊本のおけみ)

カマザワさんに新聞あり  
がとって言つといて。  
お手紙書いたで、おくる  
ね。(りおん)

風地蔵のオープンの時か  
らいらつしやる店長。ど  
んな格闘があり、そして  
今の、オーナーと店長と  
の絆が生まれたのか・  
この先がとっても楽しみ  
です。

笑いつばなしでとつても  
楽しい結婚式だったそう  
ですね。土産話や写真、  
そして原先生の文章から  
も笑い声が聞こえそう  
です。私もその場にいたか  
つたなと少々寂しい気持  
ちになったり・  
りおんちゃんの手紙、ぐっ  
ときました。大きい心  
でお母さんを温かく祝福  
しているのを感じますが  
でも本心は寂しくて気持

ちが複雑なんだろうと思  
います。お正月に逢える  
時、いつばいお母さんに  
甘えて。

奥田さん、おめでとうご  
ざいます。全く知りませ  
んでした。にぎやかなお  
正月を迎えられますね。  
子供は宝です。きつと奥  
田さんはイクメンでしょ  
う。(大橋)

そうやー、5月にあつた  
ときは腹ん中におつた  
てことか。やるなー奥  
田さん。(たかお)

原先生の結婚式の記事は  
本当のこの通りでついつ  
い笑つてしまいます。

大橋さんのクリスマスツ  
リーはその時のことを思  
い出しながら、この内容  
で社長がやきもちを焼く  
意味がわからないです。  
奥田さんおめでとうござ  
います。もつと早く教え  
て下さいよー。子煩悩な  
ので、きつと奥さまをサ

ポートされているのでしょ  
うね。

横井さんすごい！一生の  
宝ですね。  
社長。昔からの友達はい  
いですね。

りーちゃん改めて読み直  
り返してまた泣いてしま  
いました。  
あまですさんはどれだ  
けのジャンルに精通して  
いるのか不思議です。  
(鎌澤)

10年前のオープンの頃、  
社長の当時の様子がうか  
がえました。この店長の  
内容をみてみると、1年  
くらい続きそうですね。  
クリスマスディスプレイは  
私はいはあまりかわつ  
てないですが、見ている  
と楽しいです。私と大橋  
さんの意見が同じでも、  
店長だけ天然ふりを発揮  
していました。たまーに  
天然に店長はなります。  
奥田さんおめでとうござ

います。すごく日本に貢  
献していると思います。  
映画の撮影にかかわるだ  
けでもすごいのに、映画  
に出るだけじゃなく俳優  
さんと一緒に演技をする  
すごい経験です。うらや  
ましいです。

社長の気まずい思いはす  
ごくわかります。返事が  
返ってきたときはホツと  
されたというのも分かり  
ます。  
りおんちゃんの手紙は社  
長の結婚式で聞きました  
聞いても読んで思つたの  
は、店長と社長のために  
書いたという手紙ですね  
ビールズは本当の話を  
よく知らないですが、1  
2月11日の情熱大陸と  
いう番組にオノ・ヨーコ  
さんがでていました。7  
8歳と言っていました。ど  
世界中を駆け巡り、どこ  
に行つても取材を次々に  
受ける。体の隅々まで気  
を使い、使命感として動  
いているそうです。イキ

イキと生きている人はい  
くつになつても輝いてい  
ます。(原)

原先生の披露宴の記事、  
楽しみにしてたのに、足  
早にタイムスケジュール  
が書いてあり、もつと深  
い部分をとらえたいつも  
の原先生らしい感じ方に  
期待してただけに、あー、  
もつと濃く、感じた事を  
書いてほしかったな。な  
んて、欲を出してる私で  
した。大橋さんののは、あ  
たしが知らない事で、ド  
キドキしながら読み、店  
長のはまた、違う意味で  
ドキドキしながら読みま  
した。まるで、暴露本だ  
あ。(笑)振り返ると、  
こうして皆がいたから、  
毎日聞いてくれるから、  
今があるんだって、なく  
てはならない大切なもの  
を年末に感じております。  
「人はみんな不安なんだ」  
(みほ)

# 楽しかった時間

大橋 美紀

11月19日の夜、  
福岡を出発され、オー  
ナーと隆男さんは新  
婚旅行を兼ねて、大  
阪・京都・そして風  
地蔵にと来てくださ  
ることになっていま  
した。

それは私が  
11月12  
日の結婚式  
に行くこと  
がでながつ  
た私の気持  
ちを考えて  
、オーナー  
の思いから  
だと思つて  
おりました。  
店長や原先  
生はもちろ

ん出席され  
ましたので、帰つて  
こられた時から2・  
3日は、たかさんの  
写真と土産話で、エ  
ピソードなど聴かせ

て頂いたし、オーナー  
のブログの方も見て  
いましたので、私は  
笑いがいつぱいの本  
当にありえない?  
(笑)楽しい?オー  
ナーらしい結婚式じ  
やなかつたかと・  
私も含め、ブログの  
方々や、オーナーの  
ことを知つてらつしや  
る方は思われたので  
はないでしょうか。  
そしてあつという間  
に1週間が過ぎ、1  
1月22日です。私  
はオーナーと隆男さ  
んにお会いするのは、  
5月の「ゴールデンウイ  
ーク」の時以来です。2  
2日は、私が仕事が  
お休みで、店長と原  
先生はお店から、私  
は自宅から、大垣城  
の近くの「大垣城サ  
ルーン」に6時に待  
ち合わせの時間に合  
わせ、向かいました。  
どうしてこの場所を

選ばれたのかも理由  
があつて・まだオー  
ナーと隆男さんが電  
話だけの恋愛中、ま  
だ再会する前で、お  
互いの気持ちがわか  
らず、オーナーが不  
安になる気持ちを店  
長を始め、原先生と  
私が、隆男さんのこ  
とを毎日毎日、納得  
されるまで話をして  
いた頃の事です。そ  
の頃は結婚されるな  
んて想像もしていま  
せんでしたので・  
10カ月ぐらい前の  
去年の仕事納めの日、  
オーナーが私達3人  
をサプライズで連れ  
て行つて頂いた所な  
んです。とてもゆつ  
たりと時間が流れる  
感じで、お酒が楽し  
め、お料理も少々濃  
いめですが、お酒に  
合い美味しい。その  
時も隆男さんとの恋  
愛話を面白おかしく、

花を咲かせ、そして  
場が盛り上がりつてい  
た時、私ははじめて  
電話で隆男さんと  
「初めまして」とお  
話をしたのもこのお  
店からでした。いろ  
いろな思いもあるこ  
のお店にオーナーは  
隆男さんを連れてき  
たかつたそうです。  
私はお店に着き、お  
店の方に案内された  
2階の席には、オー  
ナーと隆男さんが新  
婚オーラで待つてみ  
えました。私はまず  
一声、「御結婚おめ  
でとうございます」  
ととうございます」  
店長と原先生が来ら  
れるまでの間、3人  
で、結婚式の話、新  
婚生活、毎日のお弁  
当作りの話や、仕事  
の話と会話を楽しん  
でいました。店長と  
原先生も到着され、  
皆が揃いました。お  
料理の方は、オーナー

が前もつて注文され  
たコース。飲み物は  
飲み放題でお願いし  
て頂けていたので、  
皆、乾杯の一杯を注  
文。乾杯の一声は隆  
男さん?何を言われ  
たか忘れてしまいま  
したが・(乾杯)  
(隆男さんのお酒  
のピッチは速く、女  
だらけで照れくさい  
のもあつただろうし、  
本音は多分嫌だった  
のだろうかとも思ひ  
ましたが、そこは隆  
男さん、お酒の力で  
楽しく場を盛り上げ  
て下さいました。オー  
ナーと隆男さんを見  
てて、時々、お互い  
を心配する姿、言葉  
を面白く交わし合う  
中にも愛を感じ、寒  
い日だったのでちょ  
うどいい温度に(笑)  
飲み放題の時間が終  
わり、もう一軒、す  
ぐ近くの居酒屋へ・

隆男さんは少々千鳥  
足で皆で歩いて向か  
う時間も楽しくあつ  
という間に到着し、  
そこでは、オーナー  
のブログ友達とも合  
流し、その方もオー  
ナーの結婚式に参加  
された方なので、話  
もまたまた盛り上が  
り、しかし隆男さん  
はへ口へ口・。そ  
して解散となりまし  
た。皆は自転車。私  
は主人にお迎えを頼  
み、15分くらいか  
かるのでお店でオー  
ナーと隆男さんも一  
緒に待つて下さい  
ました。そしてオー  
ナーがお手洗いに行  
かれた時、私も隆男  
さんの「入つきり」。  
私は今だと、隆男さ  
んに本音を聞いてみ  
ました。「オーナー  
には内緒にしますか  
ら、今まで結婚しよ  
うと思つた方はいな

「あ〜！これなら、ふるさとの声を聞く、行ったことない遠い國の情報にふれよう！って思ったって、どこも一緒じゃないか！あたしが番組作りた〜！沖縄だ、いや、やっぱ、曲だったけど、沖縄が出るとは！こんならふる里の意味がない！」「めっちゃくちゃキレルあたしがいた。」

出来て、あれから2回、友人の勤める熊本の平山温泉に会いに行きました。こうしてすぐに逢いに行ける距離にいる事が、嬉しいと思う自分に出逢っています。

だから、月曜日の1時半頃、ラジオから飛び出すのは、あたしのだ〜いすきな、ばつてん荒川の喋り方にそっくりな、ラジオの中でもおばあさん役の男の人の声！その人は、おじいさん役の時でも、何とも言えない温かい熊本弁を、これでもか！と出し続け、私はひとり車の中で笑いの

渦に包みこまれてきました。人が笑う時って、どんなときだろう。それこそ、りおんがテレビを見ないので、もちろん共に暮らす私も見ることなく、10年位を生きてきて、テレビっ子のだ〜りんが、毎晩同じ顔ぶれのお笑いのおもしろくないやり取りを見て、笑っている

「あ〜！これなら、ふるさとの声を聞く、行ったことない遠い國の情報にふれよう！って思ったって、どこも一緒じゃないか！あたしが番組作りた〜！沖縄だ、いや、やっぱ、曲だったけど、沖縄が出るとは！こんならふる里の意味がない！」「めっちゃくちゃキレルあたしがいた。」

もっともつとお国なまりとか、いい味とか、他ではまねできないものを出せるものがあるんじゃないかな〜。あくまでも個人的な意見ですけど、あたしは気取った英語や、標準語じゃなくって、あつたか〜い愛が溢れる熊本弁が聞きたいんだ。そして「おもしろい」と言う言葉でほめたたえるのだ。

「いなかつたねー」「本当に？」「いなかつたねー」「じゃーオーナーのこと、ずうっと想っていたんですか？」「んーまーそーかなつ」と隆男さん。なんて、オーナーは幸せの人。ずーっと10年以上も想われていたなんて、そして罪人？お二人は結ばれる運命だったんでしょね。ずーっと隆男さんはオーナーを待ってました。ジエツトコースターに乗っている毎日だけど、楽しいと、隆男さん幸せだと何度も言ってみえたこととは忘れられません。

その日、FMラジオのチャンネルを福岡のラブFMからFM熊本にあわせました。平山温泉に着くまえ、テレビをつけるとたちまち不機嫌になることに、このラジオです！私はおなかの底から笑います。どうやらそれは、なつかしく、いとおいしく、人間の生み出す、生きる力に強く感動しているようです。表現の言葉は、「おもしろい！」。ドコデモあふれる言葉ですが、いまあてはまる言葉の中には、生きてきた時

M曲も聴けるアプリを。ドコモのスマートフォンで、「ドコデモFM」というのを月315円で買うと、どこにいても熊本弁がきけるんです。昨日1日中、電池が無くなりながら、熊本FMラジオを聴き続けました。「おもしろくない」「なんで？」「今朝、だ〜りんを会社に送って、8分の通勤時間、

「あ〜！これなら、ふるさとの声を聞く、行ったことない遠い國の情報にふれよう！って思ったって、どこも一緒じゃないか！あたしが番組作りた〜！沖縄だ、いや、やっぱ、曲だったけど、沖縄が出るとは！こんならふる里の意味がない！」「めっちゃくちゃキレルあたしがいた。」

こうして、同じ人がずっと同じラジオを聞かなくて、選局できる時代になった今、

もつともつとお国なまりとか、いい味とか、他ではまねできないものを出せるものがあるんじゃないかな〜。あくまでも個人的な意見ですけど、あたしは気取った英語や、標準語じゃなくって、あつたか〜い愛が溢れる熊本弁が聞きたいんだ。そして「おもしろい」と言う言葉でほめたたえるのだ。



私は今迄オーナーからの話は嫌って、いほど聞いていました。が、隆男さんからきくと聞いていたのは初めてでした。オーナーが隆男さんにベタ惚れは、見ていればわかります。しかし私は、ベタ惚れは隆男さんの方だと確信しました。いつまでもお幸せに。本当に楽しい時間でした。また一緒に楽しむのもっと楽しい時間を過ごせたらいいな。

# 川風

しらいしみほ

「ふるさと」をテーマに生きてきたように思います。ふるさと離れたその日から。九州に住みだして8カ月経つても、やはり私のふるさとは熊本のようです。結婚式をきっかけに、古い友人に会う事が

次の日、きのうのラジオを聞きたくない自分がいて、ツイッタに「おもしろかつた〜」とつぶやきます。がら、なぜこんな熊本のひかるのか、涙が出るよ。うな衝動に駆られるのか、か、考えももちろん答えなんかも出ませんが、1日経つたその時、見つけてしまった。全国どのF

## 忙しい12月

2012年1月号

有難いことに忙しい日々が続く。子供が生まれた日（11月5日）はさすがに休んだ。

病院へお迎えの日は仕事を抜け出し、自宅に送り届けました現場に。揖斐川マラソンに出た日と子供の空手の大会が同じ日だったので、その日も休んだ。多分今年も休まずに12月30日まで仕事をするだろう。独立して9年。いつのまにか忙しい人になってしまった。いいんだか、わるいんだか？4人も子供を持つと夜も何かと忙しい。

5人でお風呂に入る（嫁さん以外）グツグツだ。冬に生まれた子ははじめてなので、寒くないように色々とお気を遣う。当然ながら空手や習い事の送り迎えは自分の仕事。植木屋なので夜はフリーだが、他の職業の人たちはどうしているんだろ？

事務仕事や設計は朝やるしかない。毎日4時起き。今までは子供がどんなに夜鳴きをしても目が覚めることがなかったが、今はなぜか何度も目が覚めてしまう。歳のせい？

4人目にしてはじめて哺乳瓶でミルクを作ってあげた。たまたま嫁さんが用事で外出だったので、ミルク缶に書いてあるとおりやってみた。かなりめんどくさい。何とか作ったが乳首の部分がしっかりはまっていなかったらしく、全身びしょ濡れに。申し訳ない・・・どこに着替えがあるかとか、どこにオムツが置いてあるかも分からなかった。だめな父親だあ。

仕事では色々な「面白い人」がやってきた。女子部員2号さん。1号さんのお友達で普段は接骨院でバイトをしている。足裏マッサージが得意で、休憩時間にお灸をしてもらったりしている。来年「おくだガーデン女子部」を正式に立ち上げるので、貴重な即戦力になってくれそう。

70歳さん。娘さんがネットで応募していただいた。定年退職されてから木工を学び、二級建築士を取ってしまった。おくだガーデン初の紳士キャラだ。

大学生君。就職活動まさかり。合間にバイトに来てくれる。どこにも就職出来なかったらウチで働いてもらってもいいかも。京都君。かなり有名な造園会社に就職しているが、なぜか来年ウチの一員となる。土日の休みに京都から、わざわざ手伝いに来てくれる。毎日大勢での作業。にぎやかで楽しい。

庭師 奥田良樹